

12月3日(木曜日)「教会の祈りの力」

【新改訳 2017】

使徒 12・1-17

「こうしてペテロは牢に閉じ込められていた。教会は彼のために、神に熱心に祈り続けていた。……すると突然、主の御使いが現れ、光が牢を照らした。……すると、鎖が彼の手から落ちた。」(5-7節)

この時、ペテロは、ヘロデ王によって牢屋に入れられ、二本の鎖でつながれ、牢の戸口にはさらに番兵がついていました。ヨハネの兄弟ヤコブが殺された後であったため、教会では多くの人々が集まって彼のために祈りました。やがて、主はその祈りにこたえてくださり、ペテロを奇蹟的に救出されたのです。

教会で皆が心を合わせて熱心に祈ることは、主のみこころにかない、大きな力を現します。

何か隠された罪でもないかぎり、教会一致の祈りは必ず大いなる祝福をもたらすのです。ペテロの鎖が解けたことは象徴的です。私たちが縛っている鎖は何でしょうか。祈りましょう。まず自分自身が自分の鎖から解放されるように。

教会の祈禱会にも出席し、皆で心を合わせて祈りましょう。

～祈り～

主よ。あなたは、教会の一致した心の祈りを重視され、また、聞いてくださることを教えられます。私たちも一致して熱心に祈り、みわざにあずかせていただけますように。

【学びのために】

マタイ 18・19-20、使徒 1・14 参照。